

新青丸共同利用研究航海報告書

- * 航海番号 KS-24-7 次研究航海

- * 航海名称
 (和文) 最先端深海調査で明らかにするプレート境界超巨大地震の発生準備過程
 (英文) Preparation procee of the interplate huge earthquake deduced from cutting-edge deep sea observation

- * 観測海域 (和文) 北海道南方沖及び三陸沖北部
 (英文) Off southern Hokkaido and northern Sanriku

- * 航海期間 令和6年4月11日 (木) ~ 令和6年4月20日 (土)

- * 出港日時・場所 4月11日 14時 八戸港

- * 入港日時・場所 4月20日 11時 横須賀港

- * 寄港期間・場所 無

- * 研究課題 最先端深海調査で明らかにするプレート境界超巨大地震の発生準備過程

- * 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mail アドレス ◎は@)
 太田雄策・東北大学大学院理学研究科・准教授・yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp

- * 研究内容, 主調査者 (e-mail アドレス), 観測項目
 1. GNSS-音響結合式海底地殻変動 (GNSS-A) 観測 (太田雄策 Yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp)
 根室沖既設の GNSS-A 観測点 G21, G22および三陸北部の G02, G25において船底トランスデューサー (船底 TR) を用いた GNSS-A 観測を実施した。G22では実施内容 (2) で示す Wave Glider との同時観測を実施することでより高精度な地殻変動データの取得を目指した。

 2. Wave Glider の投入および GNSS-A 観測による海底地殻変動観測 (太田雄策 Yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp)
 海洋研究開発機構が所有する Wave Glider SV3を用いた GNSS-A 観測の自動・自律的实施を目的とした観測を既存の GNSS-A 観測点で実施した。G22観測点において GNSS-A 観測用機材を装備した Wave Glider SV3を投入し、GNSS-A 観測を実施した。

 3. A-0-A OBP の設置 (太田雄策 Yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp)
 自己校正機能を持った A-0-A 方式の海底水圧計 (OBP) を G22近傍に投げ入れ設置した。

 4. ピストンコアラーによる採泥による乱泥流堆積物調査 (Kan-Hsi Hsiung hsiung@jamstec. go. jp)
 ピストンコアラーによる乱泥流堆積物調査を4観測点で実施した。

5. マルチビーム測深器による海底地形調査および XCTD もしくは XBT 観測 (太田雄策 Yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp)

GNSS-A 海底局付近の地形を正確に把握するために、マルチビーム測深器による観測を実施した。観測箇所としては G21, G22で実施した。

6. サブボトムプロファイラ (SBP) による海底表層構造探査 (太田雄策 Yusaku. ohta. d2@tohoku. ac. jp)

サブボトムプロファイラーによってピストンコアラ候補点周辺の地層の発達を調査し、今後の航海における最適な採泥点の選定を行った。当初予定の4本に加え、追加1本の測線で調査を実施した。

* 乗船研究者氏名・所属・職名

太田 雄策	東北大学大学院理学研究科	准教授
高橋 浩晃	北海道大学大学院理学研究院	教授
Chi-Hsien Tang	東北大学災害科学国際研究所	助教
佐藤 真樹子	東北大学大学院理学研究科	学術研究員
大澤 亮 ^{※1}	東北大学大学院理学研究科	大学院生
松本 祥太郎 ^{※2}	東北大学大学院理学研究科	大学院生
三浦 達哉 ^{※2}	東北大学大学院理学研究科	大学院生
Kan-Hsi Hsiung	海洋研究開発機構 海域地震火山部門	研究員
Yu-Chun Chang	海洋研究開発機構 海域地震火山部門	JSPS ポスドク
宮嶋 優希	マリン・ワーク・ジャパン	観測技術員
後村 大樹	マリン・ワーク・ジャパン	観測技術員

* 航跡・測点図

